

こぶしだより

Vol.375

2016・7・19 発行

まごころステーションでパン販売
しました。手作りのシールも可愛
いと評判でした（芳賀地区）



●3月11、12日の両日、ザ・ビッグエクストラ真岡店で芳賀地区自立支援協議会・就労支援部会の「真心Station」が開催されました。会場にはナイチュウも駆けつけてくれて、とても盛り上がりました。

●【平成27年度決算・事業報告、平成28年度事業計画】…2-5

●400字で語る福祉…2, 3, 5

- ④3 仁平博美（チャレンジセンター所長）④4 萩原美保（けやき作業所支援員）
- ④5 和田洋（セルプ・みらい所長）

●食堂さんぽ【第2いもの子作業所】せんべい&うどん…6-7

- 報告 農福連携、専攻科セミナー…8
- ギャラリーこぶし…9
- こぶしづかん…10

●寄稿【20年後への願い】…11

- 事業所一覧 ●ほしぶくろう…12



新会計基準になり、事業ごとの収支が明確化。 課題は、人材育成と拠点間の連携。 目指すは、経営機関の運営参加。

5月29日に第155回理事会、第43回評議員会が開催され、平成27年度事業報告が承認されたのでご報告いたします。

《平成27年度重点目標の課題別取りくみ》

一、利用者支援状況について

各事業の目的をあらためて確認し、支援課題においては、課題別の支援内容を深めるスタッフ会議を中心に、支援内容の標準化、プログラムの見直し、研修、実践交流をすすめた。

専門会議での検討内容を現場管理者の連携を密にし実管理、また本人のニーズをさらに深くくみ取ることの重要性を確認した。

二、事業の概要と新規事業プロジェクト

今年度は、新会計基準移行したことに伴い、各サービ

ス区分ごとの収支を見ることができ、各事業の経営状況を見ることができた。

新たな事業企画として、以下のとりくみがされた。

- i 県東ライフサポートセンター移転の検討
 - ii 放課後等デイサービスと日中一時（学童）の統合や発達支援センター転換への協議をすすめた。
- 居住PJの事業のあり方の検討は今後の課題となった。

三、職員処遇の状況

職員の働き甲斐のある職場づくりや、キャリアアップは、組織的重要課題となっている。

法人研修は、全職員研修とし4月25日に事業計画説明会を実施した。

また、12月19日に実践交流会を開催し、新任から幹部まで、全職員が参加したことは大きな意味があった。6分科会の内容は次の内容である。第1分科会は利用者の働くを支援する（東松山市就労支援センター理事の若尾氏による職業アセスメント技術の習得）。第2分科会は

【400字で語る福祉】④

琴線に触れた絵とことばに救われ、自らを励まして…

◎仁平 博美さん（チャレンジセンター所長）



茨木のり子さんの「汲む」という詩と、岩村和朗さんの「真っ赤なセーター」の夕日の場面に救われたことがある。やりきれない思いを抱えて入った岩村さんの原画展で真っ赤な夕日の絵を前に、自然に涙が流れ、気持ちが落ち着くのを感じた。誰だって、自分らしく生きたい、幸せになりたい、自分が必要だって思いたい。今、目の前にいる利用者の方に、どうしたらいいか悩みながら、できることは何か自分に問いている。いや、やらなくてはいけないことがあると自分を励ます。茨木さんのいう「人に対しても世の中に対しても、人を人とも思わなくなったとき墮落が始まるのね」「すべてのいい仕事の核には震える弱いアンテナが隠されている。きっと…」そのことばを汲みながら。



救命救急講習（芳賀地区）

自立の願いと自立を支援する生活支援（自立センターとちぎの永田氏による自立生活の学習）。第3分科会は持続可能な経済活動、魅力ある経済活動をどうつくりか。第4分科会は障害の重い子どもたち・ひとびとの発達と活動づくり（野沢特別支援学校の福田氏による事例を通じたICFの学習）。第5分科会は障がい者を支える事業所・地域づくりとして、茨城県袋田病院の視察をまとめて基調の報告とした。第6分科会は障がい者支援の基礎知識（木滑氏と片桐氏による新任職員の支援の基本についての回答形式の学習）の内容であった。基調シンポジウムとして、「障がい者福祉の専門性と働きがい」をテーマに法人の理事の檜山氏と評議員でもあるチャレンジドコミュニティー理事長の金井氏を交え活発な意見交換や助言をいただいた。

【400字で語る福祉】④

利用者さんのしあわせのために

◎萩原美保

（けやき作業所支援員）



まずは「福祉」という言葉をたどると「福」も「祉」も、どちらも「幸福」や「幸せ」を意味する漢字です。「福祉」を英訳すると「Welfare」という言葉が当てはまります。この「Welfare」という言葉と「fare=生きる」という言葉が合わさって出来た言葉です。利用者さんの「幸福」や「しあわせ」を感じてもらえるか、私は考えながら仕事をしたいと思います。

新任職員研修は、法人事務局構成員がレジメと資料を作成し、運営会議のなかで検討し、各拠点事業所で実施したが、実施管理と研修内容と現場へのフィードバックが今後の課題である。

四、地域課題

本年は、社会福祉法人の新会計基準に移行し、拠点区分、事業区分ごとの実践マネージメントと体制をとり、法人内地域事業ネットワークの構築や地域連携の強化をすすめた。

課題として出てきたのは移動の問題をはじめとする地域間連携の対応である。拠点間の連携（現運営委員会、平成28年度は拠点管理者会議）の調整機能も必要になっ

てくる。

五、法人機能を高める課題

法人機能としては、危機管理、労務問題等の経験を踏まえ法人ガバナンスを強めるために法令遵守ガイドラインを制定した。

情報・広報委員会としては、こぶしだより編集は担当者との努力と編集委員へのアドバイスを矢野評議員氏に指導を受け発行してきた。内容の見直しと編集委員の負担の軽減は課題となっている。

財政関連では、会計規程の変更により、年度比較が適時できない事もあり、単年度の状況報告になるが、事業活動収支差額が2,873万の繰越があった。今後も、予算編成方針と重点政策原則を共有化しつつ予算管理を強めていく必要がある。

また、経営機関の運営参加については、本年は、理事、評議員の法人事業の様々な場面へ参加をお願いしてきた。今後も、法人改革が進む中で、法人事務機能を高め、理事・評議員の経営参加を強めていくことが本格的に求められる。

《平成28年度こぶしの会全般的実地計画》

- 一、利用者ニーズの実現とサービスの最適化
 - ① 利用者ニーズを実現するサービスの最適化
 - ② 利用者ニーズに正面から向かう支援の構築
- 二、利用者ニーズを実現する事業と組織
 - ① 利用者ニーズ実現に丸となる組織づくり
 - ② 新規事業や改善・開拓的事业の実施
 - ③ 第3次経営計画の見直しと第4次経営計画の策定開始。

【お出かけ報告】

たのし、ひなめぐり いろいろなおひなさまにうっとり

2月20日（土）けやき作業所の生活介護班では益子町で開催されている“雛めぐり”に行ってきました。お雛様が展示されている店舗は約80箇所。会場では「雛飾り・雛道具・陶雛・土雛・吊り雛」などのたくさんのお雛様の前に女性陣はうっとり……。女の子にとっては特別なお祭りですもんね。（阿久津）



三、利用者の社会参加（QOLの拡大・潜在的ニーズ）を広げる地域活動、地域福祉支援の構築

- ① 利用者の社会参加の拡大と共生地域社会づくりの拠点としての地域拠点事業の機能発揮
- ② 地域拠点事業を基盤とした地域ボランティア（後援会・家族会）の組織によるソーシャル（コミュニティ）ワークの実践的強化とボランティアの育成（講座の実施検討）
- ③ 地域活動の手引きの作成
- ④ 法人及び地域拠点の連携組織づくりをすすめる。

四、福祉労働の高度な専門性に基づいた仕事づくりと評価制度の構築

- ① 職務、権限と責任の体系をもとにした、個別目標管理によるキャリアアップ制度と給与体系の改革
- ② QC活動とプロジェクト参加を評価することによるキャリアアップのしくみと創造性・主体性を重視する法人組織風土づくり
- ③ 社会福祉法人こぶしの会教育研修体系に基づく研修の実施と外部講師との連携及び、OJTを浸透させ、学習と実践のフィードバック管理を強める。事業計画、法人ガバナンスの中核となる中間管理職の意識改革

五、こぶしの会と地域をつなぐ法人機能の強化

- ① 経営・管理機能の再編・強化
 - ② 法人事務機能の強化
 - ③ 継続・発展できる法人財務構造の構築と予算管理
- （事務局長・白井）

【4000字で語る福祉】④

もっと住みやすい世の中へ支援者として、一人の人間として

◎和田 洋

（セルプ・みらい所長）



こぶしの会に入職し約10年が経過したが、振り返ってみるとこの間、様々な制度が立ち上がり、昔よりも「住みやすい世の中」になったかもしれない。しかし、地域にとって必要な仕組みにするためには、地域のことを良く知らなければ、必要とされる仕組みに醸成されないと感じた。現行制度という枠組みの範疇で地域を捉えるのではなく、その地域に暮らす、仕組みを必要とする人たちのために、新たな枠組みを創生することを目指すことが重要ではないだろうかと思う。誰の身に困難な事態が起きてもいいように、社会全体で富を分かち合い、リスクを分散させるシステムの一つが社会福祉の諸制度だと思う。そして、制度の不備や社会の矛盾が個々の人々にもたらす不利益について、最終的には一人の人間として、何を基準にしてどう向き合うかに尽きると思う。支援者として、自分の原点・本質をこれからも追いつけていきたい。



12月19日 実践交流集会での全体講義の様子。檜山理事（栃木県社会福祉士会会長）、金井評議員（チャレンジドコミュニティ理事長）を交えてのシンポジウム

貸借対照表

平成28年 3月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産	380,218,244	流動負債	180,108,121
現金預金	127,884,858	短期運営資金借入金	500,000
事業未収金	8,842,308	短期借入金	9,000,000
未収金	209,520,724	事業未払金	9,218,782
貯蔵品	521,288	その他の未払金	137,783,902
商品・製品	8,732	預り金	560,384
原材料	908,349	職員預り金	20,389
立替金	2,268,368	前受金	295,655
前払金	1,716,227	仮受金	2,164,229
短期貸付金	9,000,000	未払消費税等	564,800
短期運営資金貸付金	500,000		
仮払金	1,068,818		
固定資産	611,638,924	固定負債	84,041,562
基本財産	501,985,318	設備資金借入金	49,098,000
土地	93,608,881	長期運営資金借入金	7,468,000
建物	354,082,147	退職給付引当金	27,477,562
建物附属設備	54,313,508	負債の部合計	244,149,683
その他の固定資産	109,853,608	純資産の部	
建物	8,887,870	基本金	197,914,892
建物附属設備	13,520,972	国庫補助金等特別積立金	310,549,712
構築物	39,759	その他の積立金	24,825,317
機械及び装置	7,887,007	工賃変動積立金	1,749,317
車両運搬具	6,932,118	設備等整備積立金	6,787,151
器具及び備品	9,827,300	建設資金積立金	6,870,989
権利	938,434	移行時特別積立金	6,844,400
ソフトウェア	2,385,191	繰越移行時特別積立金	1,864,000
投資有価証券	7,500,000	修繕積立金	1,309,480
退職給付引当資産	27,477,562	次期繰越活動増減差額	194,417,564
工賃変動積立資産	1,749,317	(うち当期活動増減差額)	28,736,807
設備等整備積立資産	6,787,151	純資産の部合計	727,707,485
建設資金積立資産	6,870,989		
移行時特別積立資産	6,844,400		
繰越移行時特別積立資産	1,864,000		
修繕積立資産	1,309,480		
預託金	54,030		
資産の部合計	971,857,168	負債及び純資産の部合計	971,857,168

社会福祉法人こぶしの会 平成27年度 決算

資金収支計算書(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

勘定科目		決算
事業活動による収支	収	
	就労支援事業収入	82,816,227
	障害福祉サービス等事業収入	633,458,109
	経常経費寄附金収入	741,972
	受取利息配当金収入	31,899
	その他の収入	4,179,645
	事業活動収入計	721,227,852
	支	
	人件費支出	421,344,110
	事業費支出	62,084,361
事務費支出	112,472,771	
就労支援事業支出	81,457,392	
支払利息支出	1,394,516	
その他の支出	356,810	
事業活動支出計	679,109,980	
事業活動資金収支差額	42,117,892	
施設整備等による収支	収	
	設備資金借入金収入	1
	施設整備等収入計	1
	支	
設備資金借入金元金償還支出	10,848,000	
固定資産取得支出	2,342,282	
施設整備等支出計	13,190,282	
施設整備等資金収支差額	△ 13,190,281	
その他の活動による収支	収	
	投資有価証券売却収入	500,000
	積立資産取崩収入	2,118,432
	その他の活動収入計	2,618,432
	支	
	長期運営資金借入金元金償還支出	10,008,000
積立資産支出	9,231,166	
その他の活動支出計	19,239,166	
その他の活動資金収支差額	△ 16,620,734	
予備費支出	-	
当期資金収支差額合計	12,306,877	
前期末支払資金残高	186,888,165	
当期末支払資金残高	199,195,042	

事業活動計算書(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

勘定科目		当年度決算
サービス活動増減の部	収	
	就労支援事業収益	82,816,227
	障害福祉サービス等事業収益	633,458,109
	経常経費寄附金収益	741,972
	サービス活動収益計	717,016,308
	費用	
	人件費	421,344,110
	事業費	62,084,361
	事務費	112,472,771
	就労支援事業費用	81,054,939
減価償却費	38,727,974	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 28,798,118	
その他の費用	3,972,304	
サービス活動費用計	692,858,341	
サービス活動増減差額	24,157,967	
サービス活動外増減の部	収	
	受取利息配当金収益	31,899
	その他のサービス活動外収益	4,179,645
	サービス活動外収益計	4,211,544
費用		
支払利息	1,394,516	
その他のサービス活動外費用	356,810	
サービス活動外費用計	1,751,326	
サービス活動外増減差額	2,460,218	
経常増減差額	28,618,185	
特別増減の部	収益	
	その他の特別収益	2,118,622
	特別収益計	2,118,622
費用		
特別費用計	0	
特別増減差額	2,118,622	
当期活動増減差額	28,736,807	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	170,939,309
	当期末繰越活動増減差額	199,876,616
	基本金取崩額	0
	その他の積立金取崩額	324
	その他の積立金積立額	5,259,376
次期繰越活動増減差額	194,417,564	



さんぽ



焼く前のおせんべい
焼いて、味をつけて乾
燥させます

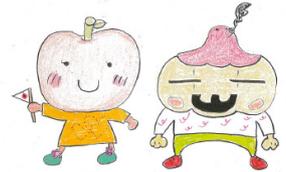
新 子作業所に行ってきました



包装紙にシールを貼っていきます。
同じ場所に、丁寧に。



乾燥の工程
重ならないように慎重に広げます



【小江戸うどん】

Q: 始めたきっかけは？

A: 工場を閉める社長さんに声をかけてもらい、職員が技術を受け継いで始めました。

Q: うどんの特徴は？

モチモチとして、コシの強い半生麺。常温で2ヶ月持ちます。
2人前で250円(税抜)なので少し高く感じるかもしれませんが、納得の風味が自慢です。

Q: キッチンカーが停まっていたが

A: 調理販売も行っています。埼玉県内各地のイベントや観光地などにキッチンカーで出かけ、季節や場所に合わせたメニューを販売しています。メニューは10種類ほどありますが、販売する時は季節と場所にあわせて2種類ほどに絞っています。どのメニューもとても好評です。



買ってきたうどんを実際に茹でて食べてみました。コシが強く、噛み応えもしっかりしていて、懐かしい味でした。子供の頃近所に手打ちのうどん屋さんがあり、茹でたうどんの端をもらって食べていたあの頃の味を思い出しました。美味しかったなあ～

今回は、北川と松本2人で埼玉県川越市にある、「第2川越いもの子作業所」に行ってきました。「お煎餅」が有名で、現在は「うどん」も手掛けています。平均工賃26,000円。うどんの製造・販売班では37,000円という高工賃達成事業所でもあります。おせんべいの味だけではなく、高工賃についてもいろいろ聞いてきましたよ。

食道

高工賃達成事業所 第2川越いもの子

【設立の思いと歩み】

障がいを持った人たちの働く場がほとんどなく、学校を卒業しても行き場のなかった状況から脱却すべく「どんなに障害が重くても生まれ育ったこの街で働きたい、暮らしたい」という願いのもと1997年に第2川越いもの子作業所は設立されました。(川越市笠幡に「川越いもの子作業所」、川越市東田町に「第3川越いもの子作業所」があります)

「君らしく 僕らしく この街で」という考えのもと、「仕事に人を合わせるのではなく、その人に合った仕事を我々が作っていく」という理念を持っています。その中で、地場産業でできる仕事をやろう、ということで川越の名物である煎餅製造を始めたそうです。そして、どうせなら本格的に…仕事量を増やして品質も安定させるために機械を使って大量生産しようということで工場化を行いました。

知識も経験もゼロだったため、まずは煎餅工場で職員さんが修行を行なうことがスタート。それだけに相当な苦労があったようで、最初の3年くらいは味が安定せずにロスも多かったそうです。「福祉施設だから買ってあげよう」じゃなく「味」で買ってもらえるようになることを目指した。そして、ものを作ったら売らないといけない。いかに販路拡大して売るのが一番のポイント！



主力の「いもの子せんべい」の味は9種類！。特にエビ煎餅とごま煎餅は「彩の国優良ブランド品」にも認定されているそうです。各150円(税抜)という値段に比べて量も多くて、食べきれないほどでした。一枚のサイズが絶妙で、つつい手が伸びてしまう魔性のサイズです。



社会福祉法人 皆の郷
第2川越いもの子作業所
埼玉県川越市今成 3-13-3
TEL・FAX 049-224-5144
Mail imonoko-d@d2imonoko.jp

高工賃に近道なし。地道な地域との関係作りを進めていくことが大切。改めて聞けばごく当たり前のことなのかもしれませんが、それを当たり前に行うことがいかに難しいかを痛感している施設も数多くあると思います。自分もまだまだ施設という枠、福祉という枠の中でしか物を考えられていません。そこからいかに脱していけるかが重要だと思います。本当に有意義な取材でした。

最後に、取材にご協力いただいた金澤施設長さんのお話で一番印象に残った言葉です「働くことは生きること」。私も高工賃目指して頑張るぞ(北川)



ユニバーサル農業で農福連携！

栃木県が推進しているユニバーサル農業の一環として、真岡の特産であるイチゴを通じた取り組みが行われました。セルフ・みらいではJAはが野様より依頼を受け、下請け班の利用者を中心にイチゴの箱折り作業を行いました。

利用者からは「私たちの折った箱が、特産のイチゴと一緒にスーパーに並ぶと思うと信じられない！特産のイチゴに関わる仕事ができ嬉しい！」との声が聞かれました。また、箱を納品させていただいた農家さんからは「イチゴに関わる仕事にやりがいを感じてもらえて嬉しいし、こちらも手を貸してもらえて助かっている」との声をいただきました。農福連携の第一歩として、作業から納品まで手さぐりで進めてきましたが、みんなでがんばった分、やりがいも大きかったです。ありがとうございました。（渡辺）

セルフ
みらい

※「ユニバーサル農業」とは、子どもや高齢者、障害者など様々な人が農業に取り組める環境づくりを図ることにより、誰もが「農」に親しみ、多彩な効用を享受することを通じて、農業・農村の理解促進と社会的価値の向上を図ろうとするものです。（栃木県ホームページより引用）。

報告

のどか
真岡 C

障がいがあるからこそその教育延長 失敗しながら学べるそこ

2月20日（土）「障がい児の青年期の豊かな発達と自分づくり～「専攻科」って知っていますか？～」と題して、こぶしの会障がい者地域福祉セミナーを開催しました。「青年期の自立と社会参加」については、青年期らしい青春を謳歌し、「自分づくり」を行うことの重要性をお話いただきました。

今、失敗をする場所が保障されていない社会で、「なるべく失敗はしないように」という風潮が社会全体にあります。本当は青年期にこそ失敗が許される仲間や場所が必要であり、主体的に社会参加・自立・就労へ向かうために「ゆっくり、じっくり学ぶ場」が必要なのではないかということです。「発達が遅れているからこそ、学ばせたい」という親の願いが「専攻科づくり」へと結実しています。

日本で初めて開設された「学ぶ作業所 フォレスクール」は、『うちの子、落第させてくれんかな～



～専攻科の内容の特徴～

- ・ゆっくりじっくり学ぶために、午前1コマ、午後1コマで構成。
- ・内容は生徒の要望や希望、地域性に応じる。
- ・自立のためのスキルを身につけることを目指す（調理、洗濯、掃除など）。
- ・性被害、性的虐待案件も増えているため、性教育も含まれる（最近学校では教えない）。
- ・「研究」は、それぞれが興味のあるテーマを決めて、1年間じっくり取り組む（調べる）などです。

そうしたらもっと学校にいられるのに」というある親の願いが始まりだったそうです。財政的な問題もあり、教育機関では実現が不可能。『ならば「福祉」で』と、障害者福祉施設へ専攻科について説明し、事業展開してくれそうな所を探し回り、ようやく実現されたそうです。（星宮）



紙とペン を前にする と人が変わるんです



美術の先生からも高評価



まず、絵をご覧ください。…「庄巻」の一言です。見るものを魅了してしまう…そんな作品だと思えます。この独特な世界観を描いてくれたのは、けやき作業所生活介護班所属の**那花ヤス子**さんです。

普段、那花さんは積極的に活動に参加する方ではありません。作業中にも関わらず抜け出してはソファで休んでいたり、いつものまにか静養室のベッドで寝ていたり…と、そんな人柄です。ところが、紙とペンを前にするとガリリと人が変わり、まるで何かが降りてきたかのように熱中して絵を描き始めます。そして、職員の声も届かず、休憩時間も忘れて文字どおり没頭しています。

けやきでは、月に2回先生をお招きして美術活動を行っています。その美術の先生に「那花さんの絵、家に飾りたいよ!」と言わしめるほどの高評価をいただいています。

昨年6月から、就労移行を経て「上三川ふれあいの家ひまわり」の生活支援員として働いている**上野友梨**さんを紹介します。支援員として利用者さんと関わるだけでなく、各部署から原稿を集めホームページの更新、パン屋さんのニュースペーパー発行、施設消耗品等のチェックと発注、日誌の作成と一日中大忙しです。就職して1年、今の気持ちを教えていただきました。

また、上野さんが更新している上三川ふれあいの家ひまわりのホームページも覗いてみてください。シュシュ（パン屋さん）の情報発信もフェイスブックなどで行う予定です。お楽しみに（牧岡）



脳性まひで電動車いすの私は、高校卒業と同時にひまわりの就労継続B型事業を利用しました。作業やパン屋でのレジの仕事をする中で「もっと責任のある仕事をしたい、人の役に立ちたい」という思いが芽生え、就労移行に利用事業を変え、色々な仕事や障がいを持つ人の仕事を体験しました。その結果、たくさんの方々を支えられ生活支援員としてひまわりで働くことができ、一年が過ぎました。ありがとうございます。

一般就労者の現在

私だから気づくこと、できることがあると信じて・・・
「できることを精一杯」

働きはじめの頃よりも仕事に対するやりがいや責任を感じることはもちろんですが、利用者から職員への立場の変わった現在もいつも嫌な顔一つせず手を差し伸べていただき、何不自由ない環境に身を置けることで周囲の職員や利用者さんの温かさ、優しさを一層強く実感する毎日です。

何をするにも人の何倍もの時間がかかり、できないことがたくさんありますが、私だからこそ気づくこと、できることがあると信じ、皆さんの役に立ち、そして本物の「支援員」になれるよう精一杯頑張りたいと思いますので、これからもよろしくお願ひいたします。





無意識の日々に グサリと刺さる案とヒント

お菓子工房ピケでお菓子づくりに取り組む渡辺さんからは「暮らしのヒント集」の紹介です。ガソリンスタンドでの待ち時間に読んだ「暮らしの手帖」の中を書き下ろした文だったそうですが、全てが渡辺さんに当てはまり別冊として出版されるのを買わずにはいらなかったとのこと。渡辺さん曰く、日々の日常をルーティーンのように無意識に流されていく中、

グサリと胸に突き刺さるフレーズがありました。今の自分の生活を見直し、変化をもたらしたいと考えている方に日々の小さな幸せ、生活の知恵・簡単なレシピなどを通じて様々なヒントを与えてくれます。読む時期によって心に響く言葉は違いますが、きっと気づきを与えてくれる本とのこと。この本には、いつも明るくハキハキしている渡辺さんの元気のヒントが詰まっているのかもしれない。興味深々です。(渡辺達也)



渡邊明美さん
(わたなべ・あけみ)
セルフ・みらい支援員



暮らしのヒント集
●暮らしの手帖編集部 / 編
●出版 / 暮らしの手帖社 ●
1,296円(税込)

私のポジティブバイブル！

県東ライフサポートセンターに勤務されている大出さん。自然が好きで休日は日光方面にでかけて遊歩道を歩くこともあるとか。忙しい日常から離れ自然の中でゆったりとした時間の流れを感じるのが好きなのだそう。そんな大出さんからは、「松岡修造の人生を強く生きる83の言葉」の紹介です。

松岡さんのプラス思考が満載のフレーズが独特で、スッと頭に入り、ガス抜きが必要な時に読むとよいそうです。特に大出さんが好きなフレーズは「何よりも大切なのはあなた自身がどうしたいかだ。」とのこと。自分の気持ちを見つめる事の大切さを再認識し、何かを判断する時の指標となる言葉。普段の仕事の中でもありのまま、素直な姿勢を心掛けている大出さんらしいと感じました。そんな大出さんだからこそ相手も構えず話しやすいはず。 (渡辺達也)

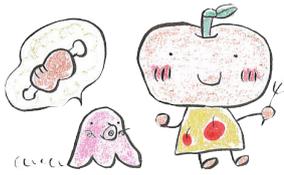


松岡修造の人生を強く生きる83の言葉
●松岡修造 / 著 ●出版 / アスコム ● 1050円(税込)



大出寿子さん(中央)
(おおいで・としこ)
県東LSC 真岡支援員

20年後… こぶしの会が地域の中でひっそりと、 でもしっかりと人々を支える組織であってほしい



20年後の地域、こぶしの会について 山崎真帆子 (放課後等デイサービスたんぼぼセンター長)

当事者になって気づけた限 界と、知ってこそその支援

私は最近になってようやく、福祉サービスの利用者になりました。実の両親が高齢の認知症で、介護保険を利用してもらっています。利用者になって、改めて気づくことがたくさんあります。こちらの気持ちを尊重しようとして「どうしますか」「どうしたいですか」といろいろと聞かれると、もう少し高齢者支援のプロとしての助言がほしいなと思ったり、他の方がどんなふうにご利用しているのか情報してほしいと思うこともありま。事業所の方のほんの少しの言動や顔の表情が気になって、迷惑をかけていると感じお願ひすることを控えてしまったり、当然の事とわかっていても、仕事中に頻繁にかかってくる支援者の方達からの電話や関係機関との会議のお誘いが億劫に感じ、自分の親の事なのにそう感じる自分に嫌気がさしたり。

今まで、仕事をする中で、民間の福祉職としてそれなりに熱意をもって利用者さん本人やご家族の気持ちに近づこうとしてきたつもりではあるけれど、まだまだ甘かったんだなあというのが実感です。無意識に支援者としてのおごりがあつたと反省します。要するに、立場が違えばいくら相手の気持ちを理解する、気持ちに寄り添う、などときれいごとを言っても限界があるということです。

おそらく、どんなに長く支援者としての経験を積んだとしても。だから、理解する努力をしないというわけではありませんが、限界があるということを理解した上で、謙虚に、支援に携わらなければいけないということだと思います。

自分らしい暮らしが「いい」 つまでもできる仕組み

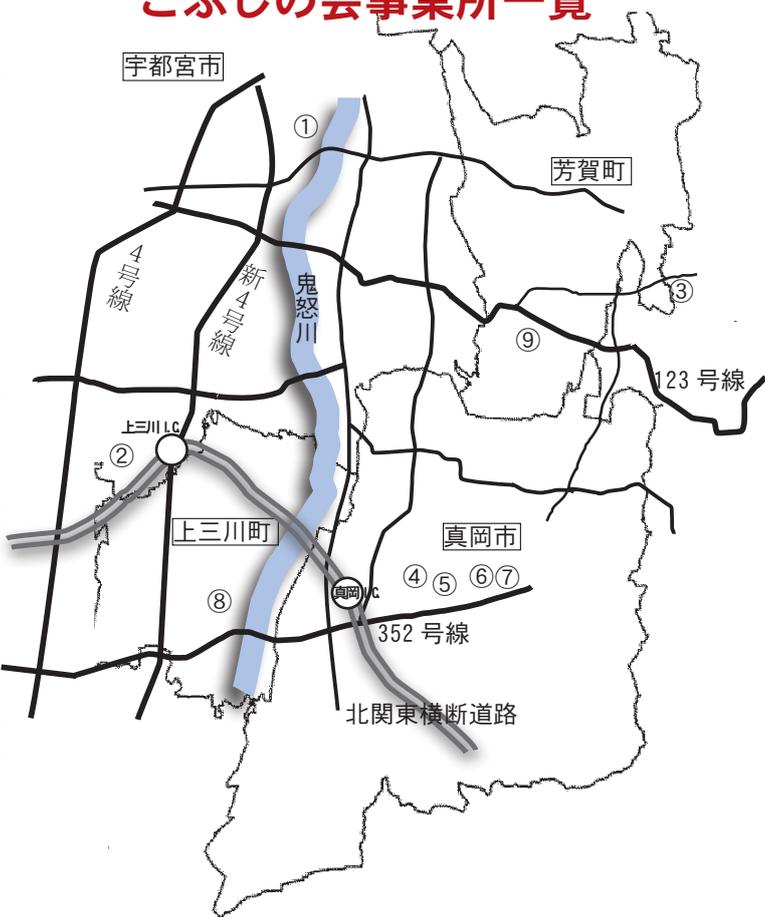
ご存知の通り、日本は二〇〇七年に高齢化率21%を超え、超高齢化社会に入りました。二〇一四年の高齢化率は26%になっています。介護保険料を負担する65歳以上の人口は、介護保険の創設以来増加していましたが、二〇二五年以降は減少するという予測があります。一方で、75歳以上の人口は急速な伸びはなくなるものの減少はせず、割合としては85歳以上の人口が増えていくことになりました。当然、高齢者とその家族の生活を支える介護保険の財政は厳しくなります。入院や入所の施設の数的な限界も容易に予測がつく中、二〇二五年を目途に地域包括ケアシステムの構築が求められています。地域包括ケアシステムとは、医療や看護、介護を受けながら、高齢になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで継続できる仕組みを指します。一方で障がい福祉の分野でも第4期障がい福祉計画の中に相談支援を中心とした地域生活支援拠点の整備がうたわれています。地域生活支援拠点とは障がい児・

者の地域生活を推進する拠点で、専門性や緊急性、地域の体制づくりなどの機能が求められています。

地域にも職員にも優しい組 織であってほしい

こぶしの会でも利用者の高齢化や親亡き後に対する検討が始まっています。地域の中の重要な社会資源として期待される役割を十分果たしていくために、どこに向かつてどのように歩んでいくのか。現状と課題、今後の方向性を共有して準備をしていかなければなりません。今の法人の利用者さんたちは20年後、まだまだ高齢者を支える立場にある人もいます。高齢になってたくさんさんの支援が必要になったときには上手に支援が受け入れられる人になってほしいなと思います。今年度から放課後等デイを利用している子どもたちは、20年後、皆、立派に成人し高齢者を支える立場にある年齢になっています。何かの形で支えることができる大人になることを目指したい、そのことを周囲の人たちと共有して、支援者としておごることなく、一緒に歩んでいきたい、そう思います。20年後、こぶしの会が地域の中でひっそりと、でもしっかりと人々を支える組織であってほしい、利用者を含めた地域の人たちにも、もちろん働く職員にも、優しい組織であってほしいと思います。

こぶしの会事業所一覧



- ① 宇都宮市柳田町 1401
 □こぶしの会法人本部
 028-613-3707 (F) 028-666-6128
 028-666-0418 (居住生活支援事業部)
- ② 宇都宮市茂原町 837-1
 □こぶし作業所
 028-653-1020 (F) 028-688-1121
 □障がい者生活支援センターこぶし
 028-613-5703
- ③ 芳賀郡芳賀町祖母井 2244
 □けやき作業所
 028-687-1040 (F) 028-677-5789
 □地域活動支援センター「ほっとCHA」
 090-7820-9165
 芳賀郡芳賀町祖母井 1704-8
 □第2けやき作業所
 028-689-8301 (F) 028-689-8302
- ④ 真岡市亀山 1043-23
 □セルブ・みらい
 0285-81-1155 (F) 0285-81-1177
- ⑤ 真岡市荒町 3-9-5
 □県東ライフサポートセンター真岡
 0285-83-2567 (F) 0285-85-8055
 □お菓子工房 ピケ
 0285-81-7091 (F) 0285-81-7092
- ⑥ 真岡市荒町 111-1
 □県東圏域障害者就業・生活支援センター
 「チャレンジセンター」
 0285-85-8451 (F) 0285-85-8452
- ⑦ 真岡市荒町 111-1
 □相談支援センターのどか・真岡センター
 0285-81-5890 (F) 0285-85-8452
- ⑧ 河内郡上三川町大字上三川 5082-15
 □上三川ふれあいの家ひまわり
 0285-38-6821 (F) 0285-38-6841
 □上三川町障がい児・者生活相談支援センター
 0285-38-6854
 □アトリエ・ド・パン シュシュ
 0285-56-7731 (F) 0285-56-7732
- ⑨ 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2
 □おらがそば茶屋
 028-680-5091 (F) 028-680-5092

暑くて湯船につかりたくない・・・ そんな時は足浴で血行改善を！

・入浴が疲労回復に効果的なことは知られていますが、暑い夏はついシャワーで済ませてしまうものです。そんな時は、足だけを湯につける「足浴」はいかがでしょう？

「第2の心臓」と言われる足を温めると、全身の血行が改善され、疲労やむくみの解消に効果的なんだそうです。足浴でたっぷり汗をかいて老廃物を排出した後、シャワーを浴びるとさっぱりするのでおすすめです。



【編集後記】

■こぶしだより委員会に参加して早2年。今年は記事も担当し文章を書いて伝えることの大切さ、大変さを実感しています。今後は自信をもてるものを作っていければ良いと思います。(富山)

▲もう、新学期が始まる季節です。桜も咲き始める頃ですね。新しい事を始めるには良い季節になりました。取材や研修で県外に出ることが多かったのですが、いつもと違う風景を見ると力をもらえます。暖くなる季節に合わせて、気持ちも一新、前向きに頑張らしましょう！(北川)

◆こぶしだより編集委員も、新年度からついに5年目突入です。最初のころに比べれば、少しはマシな文章が書けるようになっていないでしょうか(？-?)今年も気合を入れてがんばります!!(星宮)

★週末はほぼサッカー観戦ONLYでシーズンオフは引きこもりの週末、ということを以前編集後記で書いた記憶がある。しかし最近は色々なものに興味がわき、ラグビー、バスケ、アイスホッケーなど観戦で大忙し。充実した週末が多かったように思う。そのエネルギーを少しは仕事に！というご指摘にはノーコメントでw(松本)

●こぶしだよりに携わってもうすぐ1年になります。他の事業所に取材にいたり、写真を撮ったりと、普段は出来ない良い経験が出来たなあ〜と思います。そしてようやく編集委員としても慣れてきたところです。来年度はどうなるか・・・卒業が残留か・・・ゴクリ。期待と不安で胸がいっぱいです。(阿久津)

♥年度末っぽいコメントが多いですね。取材3月発行7月というタイムラグを痛感しています。今年は滞らないように定期発行がんばります。いや、編集長がんばって〜(牧岡)